

# 「地元学生の受け皿企業として」

## 会社の成り立ち

株式会社ピーアンドエーテクノロジーは2009年の9月に創業し、現在9期目の半分を終えたところです。

前身は本社を横浜に置き、花巻に工場と開発部門の一部があった、株式会社アドテックシステムサイエンスの盛岡R&Dセンターが、分社の形で独立いたしました。私は創業当時は取締役でしたが、一昨年の9月に2代目の代表取締役として就任しました。

株式会社アドテックシステムサイエンスは、ユニークな組込系コンピュータの会社で、あのアップル社と同じ時期である1976年に創業しました。当時アップルIIにインスパイアされた「オレンジ」と言う名前の独自のパソコンを1979年に開発・発売し、ラスベガスで開催されていた世界最大級のコンピュータ関連展示会では、PCマニアの間で大変話題になったとのことでした。

以前、私が社名の由来を当時のアドテック社の社長に聞いたところ、アドテックの「アド」は「アドベンチャー」から取ったとのこと、今もそのDNAとスピリッツは、ピーアンドエーテクノロジーにも引き継がれております。

## 現在の事業状況

現在の当社の業務内容をひと口で説明するのは大変難しいのですが、主たるお客様は、自動車に搭載される電子機器を開発したり製造したりするエンジニアの皆さんになります。

前身の会社では、私が入社した当時、売上の大半は組込用ボードや、ソフトウェア・ハードウェア開発支援装置等の自社製品でしたので、当社もメーカーとして自社製品を持つものだと当たり前の様に思っていました。が、起業間もない小さな無名の会社が、リスクを背負って自社製品を開発することがいかに難しいか、経営側の立場となつてはじめて痛感しました。



株式会社ピーアンドエーテクノロジーズ  
(盛岡市)  
代表取締役

大 関 一 陽

その後は、お陰様で各種補助金にも採択され、現在は国内開発・製造品としては唯一無二のUSB接続型デジタルオシロスコープPA・S2000や超高速データロガーPA・S1000、CAN&LIN通信シミュレーターViCSiM(ヴィクシム)等の数々の自社製品をライナップすることが出来ました。

現在の自社製品の売り上げは20%程度ですが、出来るだけ毎月の売上を安定させるため、さらにバリエーションを増やしこれを50%程度まで引き上げたいと思っています。

現在当社の売上の中心となつているのは、自動車関連機器の受託開発分野ですが、弊社のコア技術のひとつである車載通信分野は、今注目されている「自動運転」等で増々その重要性が高まりますので、当面の需要は拡大方向で続くものと見ています。

## 今後に向けた注力分野

一方、やはり今後日本人の人口は確実に減少していきますので、国内では自動車自体の市場縮小も視野に入れておく必要があります。

そこで、国内の自動車業界の状況を鑑み、当社が新しい取り組みとして力を入れているのは次の2つの分野です。

### ① 海外・パートナーとの提携と海外展開

現在開発リソースの相互確保のため、海外パートナー企業との協業や、自社技術の海外への展開を行っています。

今この記事も海外の空港で書いておりますが、弊社が得意としている車載通信規格は世界共通ですので、国内のみならず世界中に取引のチャンスは広がっています。特に若い社員の皆さんには、海外とのやり取りは特に特別な業務ではなく日常のことと感じてもらえれば、彼らの視野を広げる意味でもとても大事なことだと思っております。

### ② 福祉・医療関連機器の開発

もうひとつは、福祉、医療機器関連製品の開発です。近年、高齢化の急速な進行に伴い、また医学の進歩によりリハビリが必要とされる患者さんが増加しています。

会社が目指すべき方向は、まずは社員の幸福であります。やはり会社の別の存在意義は人の役に立つことだと思っております。弊社の別のコア技術である組込系の計測制御技術により、国内外についてこの分野でも社会に貢献したい

と思えます。

## 若い皆さんに贈る言葉

最近は学生の皆さんに講演を行う機会をいただくことがあり、後輩の皆さんに贈る言葉として、いつも以下の2つのことを資料に書いています。

### ① 人生無駄なことはひとつもない

生きていると、いろんなことが起こり、私もほとんど生産的なことをしていない時期が3年

間ありました。ただ今思うと、その3年も今の私が生きていくための重要な糧となっている様な気がします。

よく若い頃は「そんなことを知っていても何の得にもならない」と言われることが多かったのですが、一見役に立たないと思われる情報が人生の潤滑油、うるおいになると信じています。

### ② 簡単にあきらめない

どこで聞いたか今では思い出せませんが、「私は失敗しない、なぜなら成功するまで諦めないから」と言う言葉が、その時の私の心にぐっと響き、今でも挫けそうになるたびその言葉を思い出します。

プロジェクトを継続していると色々な問題が発生しますが、簡単にあきらめず続けることで何か新しい人との繋がりが出来たり、それによりブレークスルーが起きると思っております。

## 将来の展望

私自身は青森県下北半島の生まれですが、大学時代を盛岡で過ごし、そのまま岩手に拠点を持つ企業に就職しました。

もちろん中央の大企業に就職することも大変素晴らしいことだと思えますが、生まれ故郷の岩手で過ごすことを希望する学生の皆さんが、待遇や仕事内容はもちろん、誇りを持って就職できる、そんな企業に発展させていきたい。そしてそのためにも、更なる経営基盤の確立に努めていきたいと思っております。



パシフィック横浜での展示会出展の様子。当社主力商品であるViCSiM（ヴィクシム）他を展示。